

# 働き方の多様化を促し、 企業とフリーランスの両方を笑顔に 株式会社クラウドワークス

COLMINAの活動を通して出会った、魅力的な企業をご紹介します。

今回は、「働き方革命」に取り組む株式会社クラウドワークス様の主力サービスの1つ「クラウドテック」を取材しました。



エントランスには「クラウドワークス」上でユーザーが贈りあえる"ありがとう"の数が

政府の働き方改革関連法は2019年4月スタートですが、その8年近く前から「働き方革命」に取り組んできたのが株式会社クラウドワークス（東京都渋谷区）です。今回はその中で、高い技術力でものづくりに携わるITエンジニアやデザイナーの多彩な働き方を支援する主力サービスの1つ「クラウドテック」（2015年スタート）について、クラウドテックの責任者である、執行役員 中山恵太さんにお話を伺いました。

## 「働き方改革」を掲げ、時間と場所にとらわれない働き方を提供する会社

クラウドワークスは、パイオニアなどに勤めた経験のある代表取締役社長 CEOの吉田浩一郎さんが、時間や場所にこだわらない働き方に着目し、2011年に創業した会社です。2012年には、インターネットで全国どこからでも仕事の受発注できるクラウドソーシングサービス「クラウドワークス」を開始し、現在日本最大級の規模を誇っています。2014年の上場後は働き方に関する幅広いサービスを展開し、2019年6月時点で、全サービスの登録会員数は294万人、登録会社数は40.3万社。政府12府庁や全国の地方自治体が活用し、2015年には経済産業省 第1回「日本ベンチャー大賞」ワークスタイル革新賞（審査委員会特別賞）にも選出されています。

## 上場以降、あらゆる人に報酬を届けるサービスを展開

クラウドワークス創業の契機は、吉田さんが以前の会社で事業に失敗し役員が離れ独りになった時、某上場企業から「ありがとう」の言葉と共に届いたお歳暮でした。

仕事は利益だけを追求するのではなく、携わった先に喜んでくれる人がいることに意味があるという思いが強くなったこと、また東日本大震災により「家族のそばや地元で働きたい」といった、仕事や働き方に関する世の中の価値感が大きく変化しつつあることを感じ、誰もが自分らしく生きられる多様な働き方を、と思い立ったとのことです。クラウドワークスはミッションとして「"働く"を通して人々に笑顔を」を掲げていて、さらにそのミッションの下に位置付けられるビジョンには「働き方革命 世界で最もたくさんの人に報酬を届ける会社になる」があります。目標は「個人が報酬を得る機会の最大化」。インターネットを通してあらゆる個人に報酬を届けるサービスを提供し、最終的には、グループ全体の総契約額において、現在日本一の従業員数を誇るトヨタの給与総額を超えることを目指しているそうです。

クラウドテックは、2015年にクラウドソーシングサービス「クラウドワークス」から派生した、高度な技術を持つエンジニア、デザイ

ナーを企業・個人に紹介するサービスです。現在の会員は約3万人、利用企業は約1000社にのぼります。

## IT業界から製造業へ、導入企業は拡大中



株式会社クラウドワークス 執行役員 中山恵太さん

「サービス開始当初のクライアントは、大手人材サイトや旅行サイトを運営するインターネット会社、数百万ダウンロードの実績があるアプリ運営会社など我々と業種の近いIT企業がメインでした。最近ではIT化、IoT化が進む中で、ハード系の技術者だけでなく、ソフト系開発者の需要も増え、クライアント企業は製造業等にも広がっています」と中山さん。クラウドソーシングサービスである「クラウドワークス」との違いについては「クラウドワークスはインターネットでマッチングできる直接契約の場合であることに対し、クラウドテックは企業から受注した案件をキャリアアドバイザーがマッチングしてフリーランス技術者に再委託する形をとっています。我々が企業とフリーランスの間に入ることで、企業と個人が契約しにくいという問題を解消できます」と説明します。

企業にとっての大きなメリットは、高い技術力を持ち、週3日以上、数か月以上の安定稼働ができるフリーランスも紹介できること。仕様の変更や追加など、急を要する開発にスピーディーかつ安心して任せることができるフリーランス技術者が登録しているので、企業や市場の反応を見ながら迅速に作業を進められるそうです。

「ベンチャー企業やIT業界には比較的受け入れられやすかったのですが、歴史ある企業や業界などは個人のフリーランスへ仕事を依頼することへの壁がまだあるのが現状です。しかしながら最近では働き方改革などの動きを受け、大企業やIT以外の業界の企業様からもご相談を頂き、契約となる機会が増えてきているのを実感しています」と中山さん。

登録している技術者は全国に居ます。都心の企業が地方の業務に携わりたい時や、地方企業で人材確保が難しい場合など幅広い需要に対応することが可能です。

一方で、リモートワークを導入する企業は右肩上がりが増加するなど、働き方への自由度は少しずつ高まる中、フリーランスも仕事選びの際に自分らしく働けるかどうかをとっても重視しています。フリーランス人材と契約する際に、リモート勤務可能な日を1日でも設定すれば、クラウドテックから推薦できる人材が多くなるということもあるそうです。

## フリーランス転換者の声「好きな仕事ができる」「成果で評価を」

クラウドワークス社が、IT企業で社員として活躍したのちフリーランスになった男性エンジニアに、フリーランスである利点を訊いたところ「問題解決力が伸び、自律的に働く能力が養われる。自分の好きな仕事、得意分野を理解した上で案件を選べるので、高いモチベーションでコミットできる」との答えが返ってきたそうです。逆に難しいと感じるのは「常にプロとしての成果が求められるからこそ、また新しい技術やトレンドのキャッチアップはすべて自力でしなければならない点」

企業側に求める事は「フリーランスは、プログラミングに集中したい、成果にコミットしたい人が多いので、成果に集中できる環境を作ってもらえるとありがたい。成果で評価してもらえるとうれしいし、プロセスはある程度任せてもらえると力を発揮しやすい」と話していたそうです。

「フリーランスに興味はあるけど一歩を踏み出せない人は多く、実はフリーランスデビューは30歳以降の方が多いです。例えば、自衛隊のIT部門に居た40歳代の技術者がクラウドテックを通してフリーランスとなり、現在もフリーランスとして活躍されています。フリーランスになろうかどうか迷っている方には、私たちが伴走するので、まずはこれからのキャリアを一緒に考えてみることから始めてみませんか、とお伝えしたいですね」と中山さん。一方でこれから個人があらゆる企業・団体と当たり前契約できる世界を作るには、今活躍されているフリーランスの方一人ひとりの協力が必要不可欠です。「働き方が自由であるからこそ、プロとしての責任を果たすことの積み重ねが、信頼ひいては自由につながっていきます。フリーランスという働き方の未来は今活躍されている皆さんと、それを支える私たちが担っていると言っても過言ではありません」と語ります。



クラウドテックのスローガンは「プロフェッショナルなエンジニア・クリエイターにフリーランスらしい働き方を」

## 「働き方の多様化こそ、日本の人手不足の解決策」

厚生労働省の懇談会「働き方の未来2035：一人ひとりがかがやくために」が2016年8月にまとめた報告書によると、2035年には「『働く』という活動が、単にお金を得るためではなく、社会への貢献や、周りの人との助け合いや地域との共生、自己の充実感など、多様な目的をもって行動することも包摂する社会になってくる」と見られています。また、2035年の企業はどうなっているかについては「極端に言えば、ミッションや目的が明確なプロジェクトの塊となり、多くの人

は、プロジェクト期間内はその企業に所属するが、プロジェクトが終了するとともに別の企業に所属するという形で、人が事業内容の変化に合わせて、柔軟に企業の内外を移動する形になっていく」と予測しています。このように仕事の概念が大きく変わる過渡期を迎えつつある中、クラウドワークス社は日本の働き方にどのように貢献していくのでしょうか？

「これからの時代に大切なのは、社会全体が多様性を認め、それを活かすことではないでしょうか。人によって、今までのサラリーマンのような勤め方が合う人もいれば、プロジェクトベースで働き先を変える人や、（二足のわらじを履く）パラレルワーカーがいてもいい。雇用人口が減っていく中、あらゆる個人が自分らしいキャリアを実現させていくことが、日本の人手不足の解決策ではないかと考えています。フリーランス個人と企業の双方に対する接点機会を活かして、個人が仕事を通じて自分らしい生き方を選択できるサポートと、企業が多様性のある人材を有効活用できるようなサポートを実現できればと考えています」



「クラウドテックを通じて、フリーランスと企業の双方が  
幸せになれる橋渡しをしていきたいですね」



(ロゴをクリックすると、企業のホームページが開きます)

(編集後記)

近年、ものづくり企業でも、自身で情報発信サイトを作成・運営したり、サービス化を目指してスマホアプリを試作したりという動きが増えています。

このため、社内にIT技術者がいてほしい、それも企画から作成までを任せられるようなスペシャリストがほしい、との要望があるそうです。

現在クラウドテックに登録されている技術者は、IT技術者が多いそうですが、今後はものづくり技術者も増やしていきたいとのことでした。

近い将来、ものづくりの匠と呼ばれる方々が定年を迎えます。その方々がクラウドテックとつながり、新たな企業とつながることで、これまでになかった斬新な製品が生まれるのではないかと感じました。

(2019年10月時点)